

消 防



消防操法大会

— 内 容 —

消 防 組 合
消 防 本 部 ・ 署
消 防 団
火 災 統 計
予 防 行 政
救 急 業 務

消 防 組 合

大垣市消防本部は、昭和 23 年 9 月に設置されて以来、消防力も年々強化されてきたが、昭和 45 年 4 月に常備消防を有する大垣市を中心として、周辺の神戸町、輪之内町、安八町、墨俣町及び池田町の 1 市 5 町が一体となって、より効果的に消防行政を広域処理するため、一部事務組合「大垣消防組合」が設立された。

平成 18 年 3 月 27 日に大垣市、墨俣町及び上石津町が市町村合併し、構成市町村は大垣市、神戸町、輪之内町、安八町及び池田町の 1 市 4 町となった。また、上石津地域については大垣市が養老町消防本部に委託した。

組合格約により、消防団事務及び水利施設等については、それぞれの市町で執行されている。

常備消防については、平成 17 年 2 月に消防本部・中消防署が移転新築したことにより、1 本部（3 課 1 室）3 署 3 分署 1 分駐所の消防体制も確立され、平成 22 年 4 月から指令室を指令課に改め、消防、救急及び救助活動を始め、予防行政にも努力をし、その任務とする住民の生命、身体及び財産を保護するとともに、水火災又は地震等の災害を防除し、これらの災害による被害の軽減を期している。

1. 平成 26 年度消防組合予算

(単位：千円)

	本年度	前年度	比 較	備 考
歳入合計	2,332,000	2,427,000	△ 95,000	
負担金	2,052,000	2,064,000	△ 12,000	
その他	280,000	363,000	△ 83,000	
歳出合計	2,332,000	2,427,000	△ 95,000	
消防費	2,171,370	2,235,570	△ 64,200	
その他	160,630	191,430	△ 30,800	

2. 負担状況

(単位：千円)

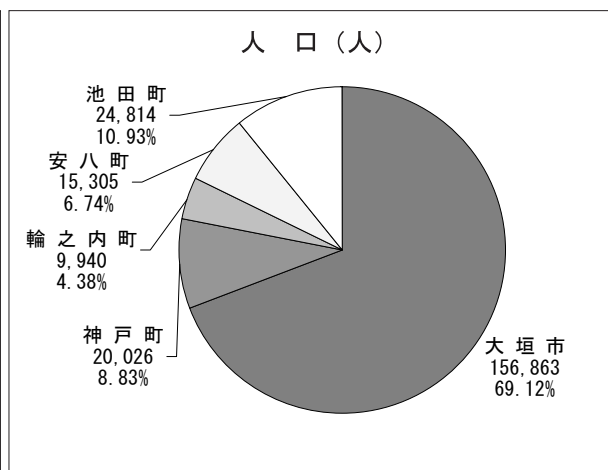
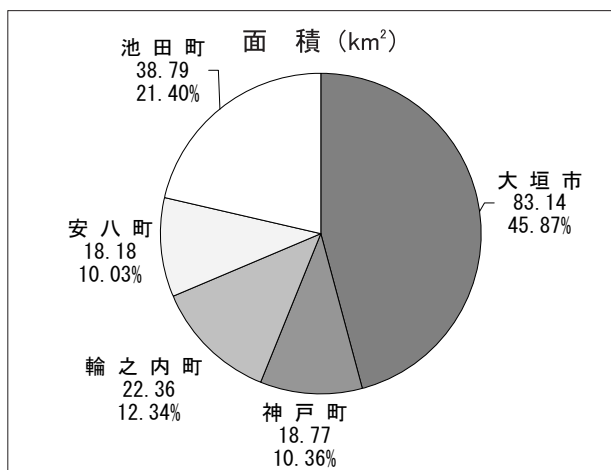
市 町 村	負 担 金	負担金の比率 (%)	特別負担金	合 計
大 垣 市	1,299,031	63.80	15,749	1,314,780
神 戸 町	206,312	10.13		206,312
輪 之 内 町	115,556	5.67		115,556
安 八 町	164,080	8.06		164,080
池 田 町	251,272	12.34		251,272
計	2,036,251	100.00	15,749	2,052,000

※ 特別負担金 15,749 千円は土地購入償還金

3. 市町村別面積人口情勢

(平成 26. 4. 1 現在)

市町村	面積 (k m ²)	人口 (人)	世帯数 (世帯)
大垣市	83.14	156,863	61,463
神戸町	18.77	20,026	6,805
輪之内町	22.36	9,940	3,062
安八町	18.18	15,305	5,075
池田町	38.79	24,814	7,936
合計	181.24	226,948	84,341



※ 大垣市は上石津地域を除いた数値

消防本部・署

1. 庁舎の現況

(単位：㎡)

名称	所在地	建設年月日	構造	建面積	延面積
消防本部 中消防署	大垣市外野 3-20-2	平 16. 10.31	鉄筋コンクリート造3階 (1階中消防署、2、3階本部)	2,204.3	4,419.2
分駐所	大垣市丸の内 2-28	昭 32. 9. 11	鉄筋コンクリート造3階 (1階の一部を借用)	418.8 (借用部分)	418.8 (借用部分)
東分署	安八郡安八町西結 2778-1	昭 46. 3. 28	鉄骨造平家建	472.0	472.0
南分署	大垣市横曽根 4-35	昭 47. 3. 27	鉄骨造平家建	387.9	387.9
北消防署	大垣市中川町 4-173-1	昭 46. 6. 22	鉄骨造平家建	563.6	563.6
赤坂分署	大垣市昼飯町 108	昭 42.12.10	鉄筋コンクリート造 一部木造2階建	251.0	449.3
北部消防署	揖斐郡池田町八幡 2675	昭 46. 3. 25	鉄骨造平家建	430.0	430.0

2. 職員数

(単位：人)

区分	階							級		計
	消防正監	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士		
消防本部	1	1	4	8	13	6	1	13	47	
消防署・分署	0	1	9	21	62	20	2	71	186	
計	1	2	13	29	75	26	3	84	233	

(1) 消防本部 47人

消防長 1人 総務課 8人 予防課 10人 警防課 7人 指令課 11人
 県消防学校派遣 1人 県防災航空隊派遣 1人 県消防学校初任教育入校 8人

(2) 消防署・分署 186人

中消防署 40人 分駐所 20人 東分署 20人 南分署 20人
 北消防署 33人 赤坂分署 20人 北部消防署 33人

区分	人員	配置車輛	小計
消防本部	47	指1 査1 広1 防1 公1 支1 水1	7
中消防署	40	指1 水1 普2 梯1 助1 器1 救2(2)	9
分駐所	20	化1 救1(1) 広1	3
東分署	20	水1 普1 広1 救1(1)	4
南分署	20	水1 水槽1 普1 広1 救1(1)	5
北消防署	33	指1 普2 化1 屈1 広1 救2(1)	8
赤坂分署	20	水1 普1 広1 救1(1)	4
北部消防署	33	指1 水1 普2 助1 小1 広1 救1(1)	8
合計	233人	指4 水6 普9 化2 水槽1 梯1 屈1 助2 器1 広7 救9(8) 査1 防1 小1 公1 支1	48台

指：指揮車 水：水槽付消防ポンプ車 普：消防ポンプ車 化：化学消防ポンプ車 水槽：小型動力ポンプ付水槽車 梯：はしご車 屈：屈折はしご車 助：救助工作車 器：器材運搬車 広：防火広報車 救：救急車（うち高規格車） 査：査察車 防：防災指導車 小：小型動力ポンプ付積載車 公：公用車 支：支援車

3. 消防車等保有台数及び経過年数

(単位：台)

区分 年数	指揮車	水槽付消防ポンプ車	消防ポンプ車	化学ポンプ車	ポンプ車	小型動力ポンプ車	付水ポンプ車	はしご車	屈折はしご車	救助工作車	支援車	器材運搬車	防火広報車	救急車	査察車	防災指導車	ポンプ付積載車	小型動力車	公用車	計
1年未満		1	1											2	1					5
1年以上 5年未満	2		1	1						1	1		2	3						11
5年以上 10年未満	1	1	2						1			1	3	2		1			1	13
10年以上 15年未満	1	2	2	1	1								2	2						11
15年以上		2	3					1		1							1			8
計	4	6	9	2	1	1	1	1	1	2	1	1	7	9	1	1	1	1	1	48

ポンプを装備する消防車は、水槽付消防ポンプ自動車、消防ポンプ車、化学車及び水槽車で、管内の署所に配備しているほか、はしご車、屈折はしご車、救助工作車などの特殊車両及び救急車などを有し、各種災害に出動している。

4. 特殊勤務手当

消防職員手当 給料月額の3%

機関員手当 (正) 月 700 円 (副) 月 500 円

救急出動手当 1 回 救急救命士 510 円 その他の隊員 150 円 (不搬送は除く)

消 防 団

本市消防団は、1本部 25分団で定数 750 人（現員 687 人 内機能別団員 60 人）の団員をもって組織され、各分団管内の警戒及び火災の予防、鎮圧に寄与している。

1. 消防団各分団の名称・所在地・人員・保有車両

区分 名称	所在地	定員	現員	消 防 ポンプ車	小型動力 ポンプ付 積 載 車	積 載 車	小型動力 ポ ン プ	耐 震 用 ミニポン プ	そ の 他
		(人)	(人)	(台)	(台)	(台)	(台)	(台)	
団 本 部	丸の内 2	28	31	1		1	1		7
興 文 分 団	室町 1	25	13	1	1		1	1	
東 〃	岐阜町	25	16	1	1		1	1	
西 〃	南若森町	25	23	1	1		1	1	
南 〃	南頬町 4	25	21	1	1		1	1	
北 〃	林町 5	25	13	1	1		1	1	
日新 〃	入方 2	30	34	1	1		1	1	
安井 〃	安井町 2	30	26	1	1		1	1	
宇留生 〃	荒尾町	30	24	1	1		1	1	
静里 〃	久徳町	30	31	1	1		1	1	
綾里 〃	綾野 1	30	33	1	1		1	1	
洲本 〃	島里 1	30	24	1	1		1	1	
浅草 〃	横曽根 4	30	21	1	1		1	1	
川並 〃	古宮町	30	35	1	1		1	1	
中川 〃	領家町 1	30	21	1	1		1	1	
和合 〃	開発町 5	30	34	1	1		1	1	
三城 〃	中ノ江 1	30	32	1	1		1	1	
荒崎 〃	長松町	30	34	1	1		1	1	
赤坂 〃	赤坂町	25	16	1	1		1	1	
青墓 〃	青墓町 1	25	27	1	1		1	1	
牧田 〃	上石津町 牧田	37	37	1	1		1		
一之瀬 〃	〃 一之瀬	15	15	1	1		1		
多良 〃	〃 上原	37	37	1	1		1		
時 〃	〃 下山	24	24	1	1		1		
墨俣東 〃	墨俣町 上宿・下宿	40	37	1	1		1		
墨俣西 〃	〃 墨俣	34	28	1	1		1		
計		750	687	26	25	1	26	19	7

2. 消防車等保有台数及び経過年数

(単位：台)

年数	種類	消 防 車	小型動力 ポンプ付 積 載 車	積 載 車	小型動力 ポ ン プ	耐 震 用 ミニポンプ	そ の 他	計
1年未満		1	2		1			4
1年以上～5年未満		7	6		14			27
5年以上～10年未満		9	0		11		4	25
10年以上～15年未満		7	16			2	1	26
15年以上		2	1	1		17	2	22
計		26	25	1	26	19	7	104

3. 団員の定員及び現員

(単位：人)

区 分	団 長	副 団 長	分 団 長	副分団長	部 長	班 長	団 員	計
定 員	1	11	37	31	70	113	487	750
現 員	1	11	37	31	70	107	430	687

4. 団員の確保

団員の補充、確保については、それぞれの自治会、消防後援会等を通じその確保に努めている。近年、団員のサラリーマン化、さらに住民の意識の変化により団員確保に困難を極めているため、昼間の災害に備えるため機能別団員を導入した。

5. 団員報酬及び出動手当

区 分	団長	副 団 長	分 団 長	副分団長	部 長	班 長	団 員
団員報酬(年額)	82,500円	69,000円	50,500円	45,500円	38,000円	38,000円	37,500円
機 関 員 報 酬	年額1人 1,500円加算						
ラ ッ パ 手 報 酬	年額1人 500円加算						
出 動 手 当	火災・訓練・演習・警戒出動に対し1回 1,100円						

※ただし、機能別団員の報酬は年額10,000円

6. 消防団運営費の支給

区 分	支 給 額
消防団運営費	6,654,000円(支給総額：1本部 25分団)
ポンプ消防車燃料費	90,000円(年額1分団1台)
小型動力ポンプ付積載車燃料費	35,000円(年額1分団1台)
被服費	4,500円(年額1人)
県消防操法大会出場分団訓練補助	500,000円(市消防操法大会優勝分団)

火 災 統 計

1. 最近3か年間の火災発生状況

	火災件数 (件)	焼損棟数 (棟)	り災世帯数 (世帯)	焼損床面積(m ²)	損害額(千円)
23	76 (43)	74(44)	40(24)	3,476(2,087)	327,788(230,240)
24	62 (44)	52(35)	27(20)	1,569(1,378)	84,760 (72,423)
25	81 (57)	62(40)	45(26)	1,898 (512)	126,264 (46,613)
前年比較	+19(+13)	+10(+5)	+18(+6)	+329 (-866)	+41,504(-25,810)

() 内は、うち大垣市

2. 出火原因別件数・損害額 (平成25年)

出火原因別	件数(件)	損害額(千円)
放火(疑い含む)	17(15)	1,485 (1,312)
たばこ	11 (9)	554 (459)
電気装置	6 (3)	1,000 (585)
その他	41(29)	51,446(43,316)
不明	6 (1)	71,779 (941)
合計	81(57)	126,264(46,613)

() 内は、うち大垣市

3. 水利施設の状況 (公設)

種別	消火栓 毎分1,000ℓ/min 未満も含む	防火水槽 40 m ³ 以上 100 m ³ 未満	井戸 1,000ℓ/min 以上	井戸 1,000ℓ/min 以下	プール	計
大垣市	2,949	328(113)	310	55	29	3,671
神戸町	934	4	196	7	6	1,147
輪之内町	507	35 (3)			4	546
安八町	352	87 (1)	98	13	5	555
池田町	1,233	161 (17)	4		6	1,404
計	5,975	615(134)	608	75	50	7,323

() 内は、うち耐震性貯水槽

4. 過去10年間の主な火災発生状況

区分 年別	月 日	出火箇所	天候	風向	風速	温度	湿度	焼損面積 (㎡)	損害額(千円)	死傷者数
16	1月 5日 (月)	居室(共同住宅)	晴	無風	—	2	75	253	6,463	死2
	2月24日 (火)	工場	晴	西	1	9	42	354	94,639	
	9月27日 (月)	玄関(専用住宅)	晴	無風	—	22	74	2	166	死1
	12月28日 (火)	飲食店	晴	北北西	1	5	69	2,334	267,137	傷1
17	4月15日 (金)	居室(専用住宅)	晴	南	1	20	38	196	13,370	死1・傷1
	5月 4日 (水)	揖斐川右岸堤外地	晴	南南東	3	24	47	—	—	死1
	1月20日 (金)	車庫	曇	北北西	3	1	58	106	12,819	死1
18	2月 5日 (日)	廊下(専用住宅)	雪	無風	—	-4	96	87	9,634	死1・傷1
	2月14日 (火)	車両	晴	南南西	1	1	88	—	250	死1
	5月12日 (金)	工場	曇	南	3	18	68	—	—	死1・傷1
	10月16日 (月)	長屋住宅	晴	西北西	5	17	81	140	2,887	死1
	19	該当する火災の発生はありません								
20	5月23日 (金)	居室(専用住宅)	晴	南南東	6	27	51	178	8,619	死1
	8月 3日 (日)	居室(専用住宅)	晴	西	1	31	70	—	3	死1
	11月 7日 (金)	居室(専用住宅)	雨	北北西	1	14	96	234	4,839	死2
21	11月21日 (土)	倉庫	晴	北北西	1	9	74	320	85,142	
	2月10日 (水)	居室(専用住宅)	曇	北北西	1	10	98	235	12,539	死1
22	2月26日 (金)	居室(長屋住宅)	雨	北	1	14	98	84	4,996	死1
	4月17日 (土)	居室(長屋住宅)	晴	西北西	4	9	72	209	5,780	死1
	6月18日 (金)	居室(専用住宅)	雨	無風	—	21	80	66	4,476	死1
	12月27日 (月)	居室(専用住宅)	晴	無風	—	-1	73	297	5,750	死1
23	1月17日 (月)	居室(併用住宅)	雪	西北西	4	2	90	756	14,346	死1
	3月10日 (木)	居室(長屋住宅)	晴	西	4	5	75	40	578	死1
	7月31日 (日)	工場	晴	南南西	1	25	86	412	66,212	
	12月22日 (木)	食事室(専用住宅)	晴	東	1	9	65	111	15,254	死2
24	2月22日 (水)	居室(専用住宅)	曇	南南東	3	13	40	125	13,568	死1
	12月 2日 (日)	店舗(台所)	曇	西北西	3	6	52	224	4,972	死1
25	該当する火災の発生はありません									

(注) 死者の発生した火災または、損害額5,000万円以上の火災を掲げたものです。

予 防 行 政

予防行政は、昭和 23 年に自治体消防発足以来、大規模火災の発生及び社会の変革に伴う幾多の法律等の改正により住民の安全確保に大きな役割を果たしてきた。

しかしながら、区域には工場等企業体の進出によって、火災等の災害危険も増大してきているといえる。

このため、大垣消防組合では、消防職員によって管内の防火対象物（工場、病院、学校、デパート等）8,477 対象（市内 6,228）や危険物施設 1,304 対象（市内 812）の合計 9,781 対象の防火査察を年間計画に基づき実施して出火危険の排除、火災等災害発生時の人命危険及び物的被害の極限防止に努力をしている。一方、各対象物関係者に対しても自主防火管理の徹底と自衛消防力の育成、強化について指導を行っている。また、住宅火災による高齢者の死者が増加傾向であり、今後高齢化社会を迎えるにあたって、住宅用火災警報器が設置義務化されたため、その啓発に努めている。

さらに日常生活の拠点である住宅、アパート等に対する防火体制の充足には、各地域の消防団等の協力をもとに防火指導を進め、特に家庭婦人層を対象とした自主防火組織体（女性防火クラブ）づくりを進めて、市民の防火意識の普及と初期消火技術等の向上を図るとともに、小学校生徒による少年消防クラブ、幼稚園、保育園児による幼年消防クラブの育成、防火教育推進、高齢化社会に対応した防火講話や福祉消防施策の推進等、幅広い火災予防活動を進めている。

<民間消防クラブの結成状況>

	組 織 名	ク ラ ブ 数 (支部数)	人 員 数 (人)
大 垣 市 (上石津地域を含む)	女 性 防 火 ク ラ ブ	16 (45)	4,603
	少 年 消 防 ク ラ ブ	22	3,181
	幼 年 消 防 ク ラ ブ	45	5,002
組 合 管 内	女 性 防 火 ク ラ ブ	20	5,152
	少 年 消 防 ク ラ ブ	39	4,837
	幼 年 消 防 ク ラ ブ	61	6,553

このほか、春秋の火災予防運動、6月の第2週は危険物安全週間、毎月8日市民防火の日、9月1日の防災の日、1月26日の文化財防火デー等には、それぞれ対象を重点として防火、防災関連行事の展開等を進めて市、住民の防火体制の一層の普及をはじめ、地震・水害等被害の軽減に適切に対応でき、災害に強く、また無災害を目指して予防行政を進めている。

救 急 業 務

大垣市の救急業務は、昭和 35 年 12 月、大垣ロータリークラブから救急車の寄贈を受けたのを機に業務が開始され現在に至っている。

この間、関係法規の改正が幾度も繰り返され、平成 3 年 5 月には救急救命士法が制定された。

平成 5 年 4 月、大垣消防組合にも救急救命士が誕生し、翌 6 年 2 月に高規格救急車を導入した。

現在、救急救命士 40 人、高規格救急車 8 台が導入され、高度な救急業務が本格的に運用され、救命率の向上が期待されるところである。また、平成 16 年 7 月から市民も自動体外式除細動器（AED）を使用することが可能になり、更に応急手当の重要性も増している。

1. 出動回数等（平成 25 年）

区分		月分												合計
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
出動件数	組合管内	777	764	794	711	738	730	868	830	755	705	748	887	9,307
	大垣市	570	564	623	524	553	530	640	617	558	504	554	645	6,882
搬送人員	組合管内	751	752	778	676	720	708	846	820	752	692	734	848	9,077
	大垣市	554	557	608	498	542	513	620	603	553	490	546	623	6,707

2. 過去 3 か年間の救急実績

区 分		火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	計	
出場件数	23	組合管内	55	0	1	1,191	103	103	1,162	39	77	6,317	517	9,565
		大垣市	27	0	1	863	62	80	829	35	54	4,670	415	7,036
	24	組合管内	50	0	3	1,119	103	97	1,195	43	82	6,058	596	9,346
		大垣市	32	0	2	786	66	77	881	28	50	4,466	488	6,876
	25	組合管内	53	0	6	1,177	80	101	1,108	32	76	6,199	475	9,307
		大垣市	30	0	5	836	47	80	842	29	51	4,595	367	6,882
搬送人員	23	組合管内	8	0	0	1,390	104	105	1,126	32	52	6,011	445	9,273
		大垣市	4	0	0	998	62	83	800	29	36	4,434	363	6,809
	24	組合管内	7	0	0	1,248	101	103	1,158	35	59	5,766	489	8,966
		大垣市	6	0	0	861	64	82	851	22	36	4,243	410	6,575
	25	組合管内	18	0	4	1,329	78	106	1,077	28	57	5,951	429	9,077
		大垣市	13	0	3	936	45	83	815	27	42	4,407	336	6,707